

1-5 気候変動によるサクラマスの越夏環境に与える影響調査

大項目	小項目	チェック	チェック項目	備考
影響予測手法 及び予測結果	(影響予測手法) 現況の再現性		現況を再現できている	使用した日最高気温において、気候シナリオ (NHRCM02)と観測値を比較した結果、NHRCM02 では全体的に低い傾向が確認されたため、地域特 有のバイアス補正を行った。
		○	現況を概ね再現できているが、一部現況の再現が困難な点があ った	
			現況再現を実施していない	
	(影響予測手法) 他地域での応用可能 性		気候シナリオを入れ換えれば、他地域でも実施可能	本調査で導出した予測式は五十川に特化している が、気候モデル値及び対象河川において同等量 以上の観測データ(河川水温一時間値)があれば、 同じ手法を用いた予測、影響評価が可能である。
		○	気候シナリオに加え、他の入力データを入れ換えれば、他地域で も実施可能	
			本調査の対象地域のみ利用できる	
	(影響予測手法) 応用に必要な技術レ ベル		多くの行政担当者が自ら実施可能である	現地での観測、予測式の導出にサポートが必要と なる可能性がある。
		○	気候シナリオや影響予測モデルを扱うことができるコンサルタント や研究者のサポートが必要	
			研究者等の指導の下でなければ実施は難しい	
	(影響予測結果) 活用可能性		行政の活用の観点から、妥当と思われる予測結果が得られた	2年分の観測データのみを用いて導出した予測式 であるため、さらにデータの取得・蓄積することで、 より精緻な予測結果が望める。
		○	概ね妥当な結果と考えられ、行政で活用が可能であるが、さらに 検証を実施することで、より精緻な予測結果が望める	
			行政で活用するためには、引き続き調査やデータ収集などが必 要	
適応オプション	適応策の妥当性		革新的な適応策を提示できた	調査対象である五十川の水温上昇に対する適応 策、及び他河川への応用も可能である適応策を提 示した。
		○	影響予測結果に対応した適応策を提示した	
			影響予測結果と必ずしも一致しないものも含め、分野の一般的な 適応策の提示を行った	
	導入可能性	○	他地域で実施・導入が可能である	河川一般を対象とした適応策も提示したため、他 地域での実施・導入も可能である。
			本調査の対象地域でのみ実施・導入が可能である	
			本調査の対象地域で導入するには、さらなる調査、検討が必要 である	
	他分野との関連性	○	他分野に相乗効果や副次効果が生じる	河川生態系保全、防災、農業、土木分野等の観点 から、改善のためのより新しい技術開発をすると 効果が生じるはずである。
			対象分野のみに効果がある	
			他分野にマイナスの影響を与える可能性があるため、導入の際 に留意が必要である	
	適応策の多様性	○	適応オプションを多様な視点から5つ以上提案できた。	調査対象である五十川だけでなく、他の河川にも 応用可能な適応策を提示した。
			適応オプションを5つ以上提案できたが、調査対象の特徴などか ら適応策検討の視点が限られていた	
			調査対象の特徴などから適応策検討の視点が限られたため、提 示できた適応オプションも限られた	

(※1) 現況の再現性とは、現在の状況を予測モデルが再現できている度合いのこと。通常、将来予測を実施する前に、モデルの妥当性を確認するため、現在の観測値等を利用して、予測モデルが現在の状況を再現できているか確認している。